

II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

7 英語（学校選択問題）

(1) 正答率

問題	配点	正答率		一部正答率		誤答率		無答率		通過率 率=得点計 (人数×配点)(%)	
		数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)		
1	No. 1	2	275	92.0	0	0.0	24	8.0	0	0.0	92.0
	No. 2	2	295	98.7	0	0.0	4	1.3	0	0.0	98.7
	No. 3	2	282	94.3	0	0.0	17	5.7	0	0.0	94.3
	No. 4	2	284	95.0	0	0.0	15	5.0	0	0.0	95.0
	No. 5	2	297	99.3	0	0.0	2	0.7	0	0.0	99.3
	No. 6 (1)	3	271	90.6	0	0.0	28	9.4	0	0.0	90.6
	No. 6 (2)	3	257	86.0	0	0.0	42	14.0	0	0.0	86.0
	No. 6 (3)	3	274	91.6	0	0.0	25	8.4	0	0.0	91.6
	No. 7 (1)	3	239	79.9	6	2.0	51	17.1	3	1.0	81.2
	No. 7 (2)	3	51	17.1	52	17.4	155	51.8	41	13.7	25.4
No. 7 (3)	3	31	10.4	54	18.1	201	67.2	13	4.3	20.2	
2	問1	3	264	88.3	0	0.0	35	11.7	0	0.0	88.3
	問2	4	150	50.2	80	26.8	69	23.1	0	0.0	66.4
	問3	4	19	6.4	3	1.0	262	87.6	15	5.0	7.1
	問4	3	295	98.7	1	0.3	3	1.0	0	0.0	99.0
	問5	4	39	13.0	223	74.6	33	11.0	4	1.3	56.7
	問6 (1)	3	157	52.5	0	0.0	141	47.2	1	0.3	52.5
	問6 (2)	3	172	57.5	0	0.0	123	41.1	4	1.3	57.5
	問7	4	55	18.4	35	11.7	124	41.5	85	28.4	25.3
3	問1A	3	213	71.2	10	3.3	73	24.4	3	1.0	72.5
	問1B	3	78	26.1	27	9.0	184	61.5	10	3.3	29.2
	問2①	3	199	66.6	0	0.0	96	32.1	4	1.3	66.6
	問2②	3	169	56.5	0	0.0	122	40.8	8	2.7	56.5
	問2③	3	187	62.5	0	0.0	103	34.4	9	3.0	62.5
	問3	3	82	27.4	72	24.1	82	27.4	63	21.1	40.8
	問4	4	43	14.4	43	14.4	81	27.1	132	44.1	22.9
	問5	3	42	14.0	0	0.0	213	71.2	44	14.7	14.0
	問6 (1)	3	20	6.7	6	2.0	74	24.7	199	66.6	8.0
	問6 (2)	3	24	8.0	4	1.3	78	26.1	193	64.5	8.8
問6 (3)	3	22	7.4	0	0.0	59	19.7	218	72.9	7.4	
4	英作文	10	46	15.4	235	78.6	12	4.0	6	2.0	64.6

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

① 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る。

No. 1～3 自宅での会話、遠足についての会話、レストランの場所等、日常的な場面での会話を聞いて、絵や地図の中から、質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

No. 4、5 美術館の入口にあった掲示を思い出す、父親に誕生日プレゼントを買うといった、日常生活における「ある場面」を説明する英文を聞いて、質問に対する答えとして適切な表現を選ぶ。

No. 6 ALTが最後の英語の授業で生徒達に話をしている。その話を聞き取り、内容についての質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

No. 7 次の土曜日の予定について、KentaとEmilyが話している。その会話を聞き取り、内容について英語で答える。

- 2 中学生のKento、Mandy、Jiroの会話である。ピクトグラムに関する生徒の話し合いについて、複数のまとまりのある英文を読み、概要や要点、必要な情報を把握し、場面に応じて英語で適切に表現する。
- 3 Nanaは人工冬眠に関するニュースを読んで、英語で文章を書いた。この英文を読んで、概要や大切な部分を読み取り、内容についての質問に答える。
- 4 人々はキャッシュレス決済をもっと頻繁に利用すべきかについての英文を読んで、自分の考えを〔条件〕と〔記入上の注意〕に従って、40語以上50語程度の英語で書く。

(3) 所見・解説

- 1 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。
- No. 1 会話を聞いて、Tomが何をしようとしているのかを示す絵を選ぶ問題である。Tomが、“I’m going to do my homework in my room, so I can’t.”と言っているので、正答はDである。
- No. 2 会話を聞いて、明日の遠足に持っていきべきものの絵を選ぶ問題である。Lisaが、“But the weather report says it will rain tomorrow. So we must remember to bring a raincoat.”と言っているので、正答はBである。
- No. 3 昼食にレストランに行こうとしている二人の会話を聞いて、どのレストランに行こうとしているのかを選ぶ問題である。“Well, how about going to the restaurant across the street from the temple? I want to eat some Japanese food”と言い、“OK. Let’s go.”と答えているので、正答はAである。
- No. 4 美術館にいるJohnが、入口の標示を思い出す場面において、標示に何とあったかを問うものである。「飲食禁止」を表す、Aが正答である。
- No. 5 Juliaが父親の誕生日プレゼントによさそうな青いTシャツを見つけたが、サイズが小さいという場面において、Juliaは店員に何と言うかを選ぶ問題である。「より大きいサイズはないか」と尋ねる、Cが正答となる。
- No. 6 英語がコミュニケーションに役立つことを説明するALTのMr. Jonesの話を読み取り、英語の質問に対する答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。
- (1) 質問は「Mr. Jonesは今なぜ幸せなのか」というものである。“Now, you try to talk to me in English.”と言っていることから、正答はCである。
- (2) 質問は「京都の神社で観光客がChikaに何をしよう頼んだか」というものである。“When she visited a shrine in Kyoto, a tourist asked her to take a picture in Chinese.”と言っているので、正答はDである。
- (3) 質問は「Mr. Jonesの話で正しいものはどれか」というものである。“It will help you in the future.”と話していることから、正答はBである。
- No. 7 Kentaとアメリカ出身の学生Emilyとの会話を聞き取り、英語の質問に対する答えとなる英文を完成させる問題である。
- (1) 質問は「Kentaはいつ愛知を去ったのか」というものである。Kentaが“‘But, because of my father’s job, my family left Aichi two years ago.’”と言っているので、正答はtwo years agoとなる。
- (2) 質問は「EmilyはKentaにShinjiとの友人関係について何を尋ねたか」というものである。Emilyが“‘How long have you been friends with him?’”と言っているので、正答はhow long theyとなる。
- (3) 質問は「なぜEmilyは次の土曜日に東京へ行こうとしているのか」というものである。“I have been looking for some English books about nature in Japan, but I couldn’t find them at the bookstores in this city.”と言っているので、正答はbooks she wantsとなる。

「聞くこと」の学習においては、No. 1のような短めの英語を聞くことから始め、英語を聞き取り、絵や図表等の情報につなげることへの慣れが重要である。No. 4やNo. 5では、特定の場面・状況において聞き取った内容について、どのような応答がふさわしいのか考えなければならない。No. 6やNo. 7のようなまとまりのある英語では、概要や要点を正確に把握するために、

メモを取るなどの工夫をして、必要な情報を把握し、整理する力を身に付けておく必要がある。

2 複数のまとまりのある英文を読んで、概要や大切な部分を読み取り、場面に応じて英語で適切に表現する力をみようとしたものである。

問1 本文1の内容と合う英文を選ぶ問題である。Kento の発言に“**We have a presentation in class next week. What topic do you want to talk about?**”とあることから、「生徒たちは選んだトピックでプレゼンテーションをすることになっている」を意味する、イが正答である。

問2 与えられた日本語に合うように、空欄に3語の適切な英語を書き、英文を完成させる問題である。「考えなければならなかった」を意味する、had to think 等が正答となる。

問3 本文の流れに合うように、単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。正答は useful for making the information easier for foreign visitors to である。「make+目的語+形容詞」等がポイントとなる。

問4 下線部 this pictogram のさすものを選ぶ問題である。本文4の2行目から3行目にある、Mandy の “**Yes, I have seen it in school. It shows a door that is used to leave the building when there is a fire or an earthquake.**”という発言から、正答はアである。

問5 本文4の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。なぜウェブサイトでテキストを読むことがしばしば難しいのかが問われている。Kento の “**It is often difficult to read the text because of too much information in a limited space on websites.**”という発言から、Because there is too much information in a limited space.等が正答となる。

問6 本文1～4の会話と合うように、示された英語に続く最も適切なものを選び、英文を完成させる問題である。(1) 本文1において、Jiro の “**New ones are made for every Olympics.**”という発言から、正答はウである。(2) 本文3において、Kento が “**Mr. Katsumi and other designers tried to make simpler pictograms that everyone in the world could understand when they started getting ready for the 1964 Tokyo Olympics. Simple pictograms created by Japanese designers many years ago are still used around the world.**”と述べていることから、正答はイである。

問7 本文の内容をふまえた自然な流れの1文になるように、空欄に3語以上の英語を書く問題である。空欄のある英文の後に、Kento が “**I’m writing the script. So, can you check my English?**”と発言していることから、「なにか私にできることはあるか」と Mandy が質問していると予測でき、正答の anything I can 等を導くことができる。

3 まとまりのある英文を読んで、概要や大切な部分を読み取る力をみようとしたものである。

問1 英文の流れに合うように、空欄にあてはまる最も適切なものを選び、必要に応じて、それぞれ正しい形に変えて答える問題である。

A については、“**The team stimulated a part of the mouse brain A the “Q neuron.”**”とあることから、A には過去分詞が入る。「そのチームは『Q神経』と A マウスの脳の一部を刺激した」という意味になるので、calledが正答となる。

B については、“**As a result, we may be able to save more B.**”とあることから、B には名詞が入る。「その結果、より多くの B を救うことができるかもしれない」という意味になるので、lifeを選び、複数形のlivesが正答となる。

問2 英文の流れと合うように、本文中の3つの空欄を補う文として適切なものを、それぞれ記号で答える問題である。

① については、第4段落に “**When mice smell a certain odor, ①**”とある。第2段落で、“**The body temperature drops, and the body stops the metabolism that produces heat.**”と述べられていることから、力が正答となる。

② については、前文までに、voluntary hibernation (任意の冬眠) について言及されている。“**In this hibernation, ② Everyone will be able to put themselves into artificial hibernation when they suddenly become sick.**”とあることから、「人はいつ冬眠に入るか決められる」を意味する、工が正答となる。

③ については、“**He saved many children, but ③**”とある。③の直前にある but とつながる、アが正答となる。

問3 本文の内容に関する日本語の質問に対して日本語で答える問題である。下線部にある、do soという表現は、繰り返しを避けるために用いられるので、前文の“we can give a certain odor”を指していることがわかる。正答例は「特定の匂いを与えること。」等となる。

問4 本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。「Mr. Sunagawaによれば、人工冬眠を使うとなぜ星を越えての宇宙旅行が可能になるのか」という質問に対して、第6段落に‘Mr. Sunagawa said, “In the future, hibernation will be used for space travel. If you are in hibernation while you travel in space, by saving water and food, it will be possible to travel beyond the stars.”’とある。Whyで問われているので、Because we can save water and food.等が正答となる。

問5 単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。「(私は) 病気やケガの人々を助ける技術(として冬眠についての将来の研究を楽しみにしている)」となるため、I look forward to future research on hibernation as [a technology that can help sick or injured people] . が正答となる。前置詞の理解、関係代名詞(主格)の表現等がポイントとなる。

問6 本文の内容をまとめた英文の空欄に、適切な英語をそれぞれ2語で答える問題である。

(1) については、本文の第1段落の、“I read some surprising news last week.”から“**It said that some researchers have been studying how to apply artificial hibernation to humans.**”までの箇所、Nanaがどのように人工冬眠を知ったか述べられている。要約文には**She learned what hibernation is and was** (1) **know that hibernation might be applied to humans.**とある。そこから、「冬眠を人類に適用することを知り、驚いた」という意味の、**surprised to** 等が正答となる。

(2) については、本文の第2段落に“**Some researchers believe that all mammals had the ability to hibernate, but maybe they have lost this ability because of the environment they live in. Maybe some mammals learned to survive winter without hibernating.**”とあり、かつては全ての哺乳類が冬眠する能力を有していたが、生息環境により、その能力を失ったのではないかと述べられている。そこから、「必要ない」という意味の、**not necessary** 等が正答となる。

(3) については、本文の第5段落の、“**Everyone will be able to put themselves into artificial hibernation when they suddenly become sick.**”から“**This would help many people.**”までの箇所、いつ、どのように冬眠を始めるかを研究者達がコントロールすることはまだ難しいことがわかる。そこで、「難しい、不可能な」という意味の、**hard for** 等が正答となる。

様々なテーマや分野に関するまとまった長さの英文を読み、理解が不十分と思われる事項の確実な定着を図りたい。

4 ④ お金の支払い方についての英文を読んで、与えられた条件と記入上の注意に従い、まとまった内容を英語で適切に表現できるかをみようとしたものである。文中にある「人々はまだ頻りにキャッシュレス決済を活用すべきか」という質問に対して自分の考えを述べ、さらにその理由がわかるように全部で40語以上50語程度の英語でまとめる問題である。

正答に至らなかった解答では、動詞、形容詞、副詞の誤用が最も多くみられた。また、文における動詞の語法の誤りや、不自然な文のつながり、前述内容の繰り返しもみられた。

問題に正対し、適切な表現を用いて内容に一貫性のある文章を書けているかということに注意を払いたい。また、文のつながりや論理の展開等にも意識を向け、自分の考えや理由等が読み手に正しく伝わる文章を書く力を身に付けておく必要がある。